

しよほう

第15号

平成26年3月19日発行
伊勢市小俣町元町540番地
事務室 0596-22-7900
教育相談 0596-22-7867
教育支援センター 0596-22-7901
FAX 0596-22-7898

<目次>

巻頭言 「少年の瞳を大切に」 教育委員長 八木雅文
「平成26年度伊勢市教育研究所教職員研修講座予定 はまぐち通信」
「『不登校対策ハーモニーハート総合推進事業』の展望」
「伊勢市のICT活用事情 かわむら通信」
「『スマイルいせ』からのお知らせ」
「とびっくす」(3つの話題)
「平成25年度の終わりに」



巻頭言 「少年の瞳を大切に」

教育委員長 八木雅文

私は、いま本業の傍ら、週末を利用して、地元の少年野球(スポーツ少年団)の監督として、小学生と一緒に野球をする機会を与えてもらっています。私も同じように30年以上前の小学生の時に、スポーツ少年団に所属し、野球を学んでいたからです。

野球ですから、競技ですから、もちろん勝ち負けは絶対あります。子供たちも「勝つ」ことを欲しています。「勝つ」ということを目標に掲げ、子供たちを指導しますが、その傍らで、「野球をさせてもらっていることに感謝すること」、「きちんとお世話になった人や周りの人に挨拶をすること」、「団体競技であるがゆえに周りの仲間目配ること」など、小学生に必要な人間形成として大切なことを野球を通して学んでもらいたいと、そういうことを大切にしています。

実は子供たちから学ぶことがたくさんあります。大人が子供たちに教えること以上に、我々大人が気づかされるものがたくさんあるのです。

子供たちは、「自分ができる。やれる。」ことを全く疑っていません。まっすぐに指導者である私の目をのぞき込みます。「ヒットが打てる。打球を処理する。」ことを純粋に信じ、純粋に思い込み、野球に打ち込んでいます。私たちが大人になって忘れてしまったことを、彼らは思い出させてくれます。そういえば、私自身もプロ野球選手になれることを当時全く疑っていませんでした。

私たちはいつから、いろんなことを諦めるのでしょうか。私たちはいつから、「まずは、とにかく、やってみよう」ではなく、「できない理由」を探すようになったのでしょうか。あの少年(少女)たちのように、自分の無限の可能性を心底信じ、きらきら輝いていた瞳をどこに置いてきたんでしょうね。

子供たちの笑顔溢れる社会は、その子供たちの周りにいる大人の自信から生まれるのだと思います。大人がそれぞれ自分の生き様を、自信をもって子供たちに示すことができなければ、どうやって子供たちは、夢や輝く未来を描くことができるのでしょうか。輝く瞳と、人生の夢や将来を描く真っ白いキャンパスを子供たちは全員持っています。そこに、「地域のお役に立てるような大人になる」だとか、「日本の将来を担う大人になる」だとか、子供たちが描く為には、周りの大人が「できない理由」を探すのではなく、「どうすればできるようになるか」を追い求め、その姿を子供たちに示すことがとても重要だと思えます。

伊勢の街は20年に一度の式年遷宮を迎える街です。20年に一度、新しい息吹が吹き込まれる街です。そこに全国から本当に多くの方々が、この伊勢にお越しになられます。伊勢の街も、遷宮という神事を通して、しっかりとしたローカルコミュニティが確立され、それこそお年寄りから壮年から青年から子供たちに至るまで、新しい息吹を感じ、日本の大切な伝統と文化を継承する中から、生きる上で大切なことをしっかり後生に伝えていこうとする街です。だからこそ、伊勢は「はじまりの町」と言われますし、伊勢を「子供たちの笑顔溢れる社会」にしていかなければならない責務が我々にはあると思えます。

知性を磨き、豊かな創造性を育み、健康で文字通り健やかな子供たちを育てるためには、子供たちの生活の原点である「家庭」と、団体生活の中心である「学校」、そして生かされていることに気づく「地域」。それぞれが孤立することなく、互いに連携しあい、それぞれの責任をきちんと自認し、子供たちに真摯に向き合うことこそが最重要であると思っていますし、そんな環境を創り上げていかなければいけないと思っています。

平成26年度(6月～8月)の

伊勢市教育研究所教職員研修講座予定



	日程	内容	講師	研究所 初講座	会場等備考
1	6月3日(火) 午後	情報モラル	和歌山大学准教授 豊田 充崇	○	小俣総合支所 大研修室
2	6月13日(金) 午後	授業づくり (国語科)	中部大学准教授 深谷 圭介		★師範授業
3	6月28日(土) 午後	乳幼児教育 専門講座	亀山子ども支援センター専門監 志村 浩二	○	小俣総合支所 大研修室
4	7月24日(木) 午後	教育相談	奈良女子大学教授 伊藤 美奈子	○	ハートプラザ みその多目的
5	7月28日(月) 午前	授業づくり (理科)	筑波大学附属小学校教諭 佐々木 昭弘		★師範授業
6	7月28日(月) 午前	おもしろ 理科実験	県立伊勢高等学校 理科担当教諭		県立 伊勢高等学校
7	7月29日(火) 午前	授業づくり (国語科)	筑波大学附属小学校教諭 二瓶 弘行		★師範授業
8	7月30日(水) 午後	人権を考える 市民の集い	弁護士 菊地 幸夫	○	いせトピア 多目的ホール
9	7月31日(木) 午前	授業づくり (社会科)	玉川大学教授 寺本 潔		★師範授業
10	8月1日(金) 午前・午後	ICTスキルアッ プ講座Ⅰ・Ⅱ	情報教育研究会等		未定
11	8月7日(木) 午後	特別支援教育	毎日新聞論説委員 野澤 和弘	○	いせトピア 多目的ホール
12	8月8日(金) 午前	体育 体力づくり	高田短期大学助教 柳瀬 慶子	○	ハートプラザ みその多目的
13	8月8日(金) 午後	特別支援教育	プール学院大学講師 松久 眞美		ハートプラザ みその多目的
14	8月18日(月) 午後	学校・学級経営	JR東日本テクノハート TESSEIおもてなし創造部長 矢部 輝夫	○	ハートプラザ みその多目的
15	8月19日(火) 午前	ICT環境整備	情報研究会 東浦 道範		未定
16	8月19日(火) 午後	授業づくり (図工科)	愛知教育大学教授 竹井 史		☆模擬授業
17	8月20日(水) 午前	授業づくり (算数・数学科)	筑波大学附属小学校副校長 細水 保宏		☆模擬授業
18	8月20日(水) 午後	学級経営	上越教育大学准教授 赤坂 真二		ハートプラザ みその多目的
19	8月21日(木) 午前	ICT環境整備	情報研究会 東浦 道範		未定
20	8月22日(金) 午前	道徳	山形県市立宮浦小学校教諭 佐藤 幸司	○	ハートプラザ みその多目的
21	8月22日(金) 午後	外国語活動	文部科学省教科調査官 直山 木綿子		ハートプラザ みその多目的



一流の講師陣です

平成 26 年度の教職員研修講座計画は左ページのとおりです。みなさんから「来年もぜひ！」とのリクエストが多かった講座、今日的な教育課題等をふまえた講座を数多く設定しました。伊勢市の研修講座計画について、他の教育研究所から問い合わせをいただくほど魅力的でタイムリーな研修講座ばかりです。

初講座にお招きするのは、「 」のついた 8 名の講師のみなさんです。「伊勢は大好きな街です。伊勢なら行きましょう。」とどの講師の方からも快諾いただきました。

初講座のテーマ（仮）は次のように予定しています。

情報モラル（豊田充崇先生）...「LINE とネット被害」

乳幼児教育専門講座（志村浩二先生）...「発達段階に応じた指導と課題」

教育相談（伊藤美奈子先生）...「子どもの心（事例に基づいて）」

人権を考える市民の集い（菊地幸夫先生）...「出会いの人生から学んだこと」
人権政策課との連携講演会

特別支援教育（野澤和弘先生）...「発達障害のある子どもたちの理解と
大人の支援のあり方」

体育・体力づくり（柳瀬慶子先生）...「子どもの体力づくり」

学校・学級経営（矢部輝夫先生）...「新幹線お掃除の天使たちと働く誇り」

道徳（佐藤幸司先生）...「道徳授業からせまる学力向上」

上記講座の中には、県との連携講座になる予定のものも含まれています。楽しみにしていただきたいと思います。



各写真は平成 25 年度の教職員研修講座の様子です



一人でも多くのご参加を...

平成 25 年度に実施した伊勢市教育研究所の教職員研修講座数は全 26 講座。のべ参加者数は 1,925 名でした。伊勢市の教職員数は 804 名ですので、計算上は一人当たり約 2 回、研修講座に参加いただいたことになります。

しかし、実際は研修講座が集中する夏季休業中も先生方はお忙しく、残念ながら年間通して受講していただく機会がなかったという方もみえます。伊勢市教育研究所では、「魅力的な研修講座を提供する」ことをめざして講座の運営に努めてまいりました。来年度は、ぜひ「一人一講座」ご参加いただけるようにと考えております。よろしくお願いいたします。

「不登校対策ハーモニーハート総合推進事業」の展望

伊勢市における不登校児童生徒数は、やや減少傾向が見え始めたものの依然 100 名を超えています。

この現状をとらえ、伊勢市では平成 25 年度より始まった「不登校対策ハーモニーハート総合推進事業」をさらに拡大する形で不登校対策に力を入れることになりました。拡大重点ポイントは以下の 3 つです。

体験活動の充実

教育支援センターNEST では、体験活動を重視しています。自然体験活動では自作の野菜を自分で調理して食べるという一連の活動を取り入れ、自分の力でやりとげると喜びを感じることができます。みかん狩りや潮干狩りなど自然に親しむ活動もしています。

また、陶芸教室や書道教室、琴の演奏体験などプロに学ぶ機会も大切にしています。『高校生レストラン』で一躍有名になった相可高校の村林新吾先生の料理教室も実施しました。本物に触れる時、子どもたちの瞳はきらきらと輝きます。やってみることで自信を積み重ねていくのです。

平成 26 年度は、ボランティア活動もとり入れ体験活動をさらに充実していきたいと考えています。

新たに相談員 2 名の配置

平成 26 年度より、教育支援センターNEST に 2 名の相談員が配置されます。学校訪問や家庭訪問を行い、一人でも不登校児童生徒を少なくしようというものです。

伊勢市には、学校にも教育支援センターにも来られない子どもたちが約 30 名います。その子どもたちの多くは、家では元気に過ごしています。ただ、人と触れ合う時に大きなストレスを感じるため、なかなか集団の中には入れないのです。そのような子どもたちに対して家庭訪問を行い、信頼関係を築きながら支援をしていきたいと考えています。



環境整備 (相談室の増設・バスの買い換え)

教育支援センターに通級する子どもたちは、様々な方法で通級しています。自転車で来る子どもいれば、自家用車で送迎してもらおう子もいます。また、伊勢市役所発のスクールバスに乗って通う子どもたちもいます。平成 26 年度は、子どもたちの安全確保のため、老朽化したスクールバスを買い換えることになりました。

また、通級する子どもたちの心の安定を図るため相談室を増設設置することにしました。

教育支援センターNEST では、これまで相談室を活用して、日々の教育相談や毎月の保護者面談を行ってきました。子どもたちが心の奥に抱える思いに向き合ったり、保護者とともにゆっくりと時間をかけて家庭での様子や親子の関わり方などを考えたりしてきたのです。しかし、現状では相談室が不足傾向にあったため、今回の増設にいたしました。

人と関わることに疲れた時、心を休める空間が必要です。通級開始後、はじめのうちはなかなか部屋に入れなかった子どもたちも、安心できる空間をうまく活用することで、だんだん集団に馴染むことができてきました。相談室の増設により、より細やかな教育相談ができるものと考えます。

このように伊勢市では、一人のれもなくみんなが安心して学校に通えるようにと、不登校や登校しぶりの子どもたちをきめ細かく支援していきます。全ての子どもたちが、ありのままの自分を自信を持って表現できるように育ててほしいと願っています。



不登校の理解と対応のための保護者向け資料集 『ハーモニーハート』

今年度、不登校の理解と対応のための保護者向け資料集『ハーモニーハート』を作成しました。作成にあたっては、NPO法人三重シューレ代表の石山佳秀先生にご協力いただきました。

子どもたちがどんな時代をどんな思いで生きているのか、そんな中で大人が子どもたちの心とどう向き合っていくのか、立ち止まって考えさせてくれる資料集です。

4 月に、全ての保護者に配付する予定です。

かわむら通信 伊勢市のICT活用事情



宮山小学校では、1~2月の間、4年生を中心にアンドロイドタブレットを実験的に導入して授業を実施しました。

端末の画面に向かう子どもたちは興味津々。とても楽しそうでした！

今年度は、全ての普通教室・特別支援学級へのプロジェクター・書画カメラの導入、ICT活用支援員の派遣継続、タブレット端末導入実験校の設置などを進めました。

平成18年度以降続けてきた、全ての普通教室・特別支援学級へのプロジェクター・書画カメラの導入は、昨年度小学校で、今年度は中学校で実現し、今年度をもって一区切りとなります。また、昨年度より始まったICT活用支援員の学校派遣は、昨年度19校から、今年度は述べ24校に拡大しました。

伊勢市版フューチャースクールともいえる、タブレット端末の実験導入では、小中各1校に合計115台のタブレット端末を配置しました。全校児童生徒一人に一台という規模での展開にはなりません。学年や学級で一人一台のタブレット端末を用いた場合、学習活動や授業展開がどのように変化するかを検証する必要があります。iPad mini(小学校)やAndroid(中学校)の端末を使った実験は、来年度から本格化します。

この他、教育研究所ではパソコン教室の機器入替、教育の情報化に対応するためのセンターサーバー化の検討や校務支援システムの可能性についての研究なども行ってきました。

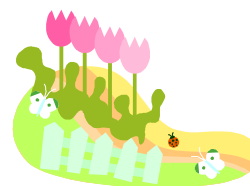
来年度も、教育の情報化に向けた環境整備や研究・ICT活用支援の継続、さらに新たな試みに挑戦しながら、より質の高い教育を実現するため、学校を支援していきます。

「スマイルいせ」からのお知らせ

スマイルいせには、コンサルタント4名、臨床心理士1名(3名が曜日で交代)が勤務し、子どもたちや保護者の相談に応じるほか、市内の小中学校からの訪問要請等にも応えています。年間の活動件数は平成26年2月末現在で以下のとおりです。

【平成25年度の活動件数】

学校訪問・学校巡回相談・学校等要請訪問の総数	133件
電話等教育相談	120件
臨床心理士カウンセリング	564件



相談内容は年々多様になり、長期化・深刻化する傾向にあります。

電話等教育相談内容の内訳を見てみると、分類項目には当てはまらない「その他」の項がもっとも多く、次いで「子育て・しつけ」、「学習」、「友人関係」となっています。

今後もスマイルいせでは、子どもたちや保護者・教職員のみなさんの思いに寄り添い、支援する身近な機関として活動を続けてまいります。

♥ 4月からの「スマイルいせ」相談受付 ♥
受付(電話等)開始
4月2日(水)午前9時から
カウンセリング(相談)開始
4月7日(月)午前9時から



とびっくす

しっかい

「悉皆研修」内容一部変更！

初任者研修

平成 26 年度から初任者研修の校外選択研修の内容が変更されます。現行では年間 25 回実施されていましたが、平成 26 年度からは年間 17 回と 8 回減となります。その分を 2 年次、3 年次に回して、スパイラル研修と位置づけ、3 年間で研修を終えるということになります。

「教職 6 年次研修」「教職経験 1 1 年次研修」

現行の教職員経験者研修「教職経験 5 年研修」「教職経験 1 0 年研修」が上記名称に変更されます。

< 変更理由 >

経験 5 年研修は採用 6 年目に、経験 1 0 年研修は教員として 1 0 年の経験を経て、1 1 年目にそれぞれ受講するという実情に合わせるため、名称を変更することになりました。（それぞれの研修で除算方法は異なります。6 年次研修には「経験」という文言は入りません。）

平成 2 6 年度 伊勢市のフレッシューズ

平成 2 6 年度、伊勢市には 1 5 名の新規採用教職員（小学校教諭 1 2 名、中学校教諭 2 名、養護教諭 1 名）のみなさんが着任する予定です。今から活躍が楽しみです！

社会科副読本間もなく完成！

社会科副読本資料作成委員会で改訂作業を進めていただいた「わたしたちの伊勢市」（小学校 3・4 年生用副読本）が間もなく完成します。様々な数値データを更新し、新倉田山球場やお伊勢さんマラソンの写真、伊勢市駅前や宇治山田駅前の信号機の写真も新たなものに差し替えました。授業でたくさん活用していただける内容になっています。

4 月初旬には各小学校に配付します。



平成 2 5 年度の終わりに

ご理解・ご協力ありがとうございました

平成 2 5 年度も残すところわずかとなりました。一年間を無事に終えることができますのも、皆様のご理解とご協力のおかげと心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、伊勢市教育研究所では、この一年間の活動を振り返り、改善と改革をモットーに来年度の事業内容を計画いたしました。外国語活動や道徳の教科化の動きは、迅速かつ的確にとらえることが重要と考え、研修講座の中に位置づけました。また、いじめや不登校の問題は、児童生徒の実態をきめ細かく把握した上で研究が進められるように、新しく現状分析委員会を立ち上げる予定です。

伊勢市教育研究所の取組は、これからも続きます。引き続き、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

平成 2 6 年 3 月 1 9 日

伊勢市教育研究所長 岩崎 三安子